

6. 「トンボ王国・さが」づくり事業 3-10

旧佐賀市は、網の目のように張り巡らされた河川やクリークを有する全国有数の“水の都”である。平成元年にふるさと創生事業に取り組むにあたって、豊かな水辺空間を愛する市民のシンボルとして「トンボ」を掲げ、豊かな水辺環境を積極的に活かした街づくりを、より一層推進していくため、「トンボ王国・さが」づくりに取り組んでいる。

(1) トンボ教室

	月 日	内 容	場 所
第1回	4月23日 27名	金立山のトンボ観察	金立教育キャンプ場
第2回	5月28日 22名	多布施川のトンボ観察	多布施川河畔公園 蛸久の農業用水路
第3回	6月18日 35名	鳥栖のビオトープ観察	いこいの森とんぼ公園
第4回	7月9日 34名	檜原湿原および、横武クリーク公園の観察	檜原湿原および、 横武クリーク公園
第5回	7月30日 21名	夏休み自然観察会	金立教育キャンプ場付近
第6回	10月15日 31名	金立公園のアカネ類の観察	金立公園

(2) 第17回トンボ写真コンクール

公 募 期 間	6月～9月
審 査	10月8日
応 募 総 数	587点（一般フィルムカメラ部門：420点、 一般デジタルカメラ部門：147点、ジュニア：20点）
入 賞 作 品	33点
入賞作品展	12月1日～1月31日（佐賀市環境センター）
トンボカレンダー	1300部作成

7. 環境おたすけマン 3-10

市民の環境保全・創造に関する意識の向上を目的として、地域での住民参加による環境学習会等に「環境おたすけマン」として、各分野の専門家や知識人などを派遣している。

テーマとしては、自然、ごみ減量、リサイクルなど専門的なものから身近な環境まで幅広く扱っている。平成18年度は12回の講座等に講師を派遣し、延べ432名が受講した。

8. 学校教育における環境学習 3-10

佐賀市では、環境行政と教育行政が連携して、水と緑に囲まれた田園都市・佐賀の素晴らしい環境をふまえ、地域特性や人材を生かし、小中学校における系統的・継続的な環境学習システムを構築して、全小中学校への普及に取り組んでいる。

また、水と緑に囲まれた田園都市・佐賀をもっと豊かにし、未来に引き継ぐため、学校生活全般において子どもたちが自ら環境保全活動を企画・実践し、環境にやさしい学校づくりを目指す「佐賀市学校版環境ISO」の制度を設け、全校認定取得を目指す。

(1) 環境教育カリキュラムの実践

平成14年度にE-Sagaプロジェクトで作成した小1～中3の9年間の系統的な「水環境カリキュラム」と、平成17・18年度に佐賀市教育研究所課題研究部で作成した「ごみ環境カリキュラム」に基づき、各学校に応じた環境教育カリキュラムを実践している。

○平成18年度環境教育カリキュラム実践校（7校）

〔小学校〕日新小、本庄小、新栄小、諸富北小、春日小 〔中学校〕金泉中、鍋島中

(2) 教職員対象研修会の開催

- ① 環境教育担当者研修会（年3回）
- ② 自然観察指導者研修会（8月）
- ③ 清掃工場見学及び分別体験研修（平成16年度から小4担任を対象に実施）

(3) 環境学習の成果発表

- ① 夏休みエコエコ自由作品展（ごみ工作、自由研究）
- ② 環境啓発作品コンクール（ごみポスター、壁新聞）
- ③ 佐賀市子ども環境サミット（佐賀市環境保健推進大会にて開催）

〔平成18年度発表校〕勸興小学校、久保泉小学校、芙蓉小・中学校

(4) 学校版環境ISO

取り組み状況（平成19年3月31日現在）

	キックオフ		計	認証取得		計
	小学校	中学校		小学校	中学校	
H14	4	1	5	4	0	4
H15	8	4	12	3	2	5
H16	5	3	8	5	0	5
H17	2	1	3	7	7	14
H18	3	1	4	2	1	3
計	22	10	32	21	10	31

9. 大学と連携した環境学習の推進（佐賀環境フォーラム）

3-10

今日、環境問題に対する市民意識は年々高まってきている。しかし、環境に関する情報の中には一方的な見解も多く、これを安易に受け入れ、逆に狭い見にとらわれてしまうことも少なくない。

このため、佐賀市と佐賀大学では、様々な情報が交錯するなかで環境に関する正しい認識を培い、理解を深めて行動して欲しい、そして、学生及び市民の問題意識を把握することで、今後の行政施策、大学の研究テーマ等に反映させていきたいとの思いから、互いのノウハウを生かしながら「佐賀環境フォーラム」を平成13年度から開催している。

佐賀環境フォーラムは、「講義」「現地見学会」「体験講座」「グループワークショップ」で構成し、市民と大学生が同じ教室で学ぶという全国的にもあまり例のない形式で実施している。

【平成18年度事業内容】

◇ 受講者

一般29名、法人14社、スポット受講27名、学生105名

□【講義】 一産学官分野から人材を迎えた講義

「講義」は、働いている市民の方でも参加しやすいよう、夜7時から開始している。講師は、環境について様々な視点から勉強できるよう、佐賀大学の教授陣のほかに、他大学の教授、企業の担当者、行政担当者など各分野から人材を迎えている。

	講 義 題 目	講 師	
1	佐賀大学の環境への取り組み	佐賀大学学長	長谷川 照
	佐賀環境フォーラムの紹介	佐賀大学理工学部教授	宮島 徹
2	環境問題総論	国連大学副学長	安井 至
3	微生物の活用法 ～中国の十年間とこれからのタジキスタン～	(有)NS-30研究所 最高経営責任者	島田 俊雄
4	ワークショップ研究成果発表	佐賀環境フォーラム	グループ代表
5	開発途上国の環境問題 バングラディッシュ/ラオスでの地下水のヒ素汚染	佐賀大学農学部教授	稲岡 司
6	イオンの環境保全・社会貢献活動	イオン(株) 環境・社会貢献部部長	上山 静一
7	気候と住まい・住まい方	佐賀大学文化教育学部助教授	澤島 智明
8	海岸林保護と松葉炭による水質浄化実験	佐賀大学海浜台地生物環境研究 センター教授	田中 明
9	ディベートで考える環境問題	佐賀大学文化教育学部教授	佐長 健司
10	グリーン購入と持続可能な消費	武蔵工業大学教授・グリーン購 入ネットワーク代表	中原 秀樹
11	極域からみた地球温暖化	佐賀大学高等教育開発センター 助教授	川野 良信
12	エンバイランメンタリズムと品格	福岡大学副学長	衛藤 卓也

□ 【現地見学会】・【体験講座】 —環境問題を現場で学ぶ—

現地見学会及び体験講座は、現地で実際に見て体感してもらうことで、机上の環境問題と自分の身近な環境とを直接結びつけて考えてもらいたいとの思いから「自然」や「廃棄物」「エネルギー」などをテーマに、実際に現地に行きこれを学んでもらう。

現地見学会

バスを使って、県内の現地見学・研修。下記3コースのうち1つを選択

① エネルギーコース：

佐賀市清掃工場、佐大海洋エネルギーセンター、風力発電（肥前町）

② 水と川コース：

石井樋さが水ものがたり館、味の素(株)、筑後川大堰

③ 森と海コース：

唐津市竹炭工房、富士町植林地、有明水産振興センター干潟体験

体験講座

① 水質調査：嘉瀬川水生生物調査による水質調査

② ごみ探検隊：佐賀大学構内のごみ拾い、分別調査・研修

③ 環境にやさしい農業体験：1年を通じての有機農業体験

④ ごみくい見学：クリーク低質を肥料として利用する循環型農業の過程を見学

□ 【グループワークショップ】 —聞くだけでなく自ら調べることで問題の本質を把握—

「グループワークショップ」は、参加者がグループに分かれ、それぞれに研究テーマを決めて研究活動をするものである。単に講義を受けるだけでなく、何が本当に正しいのかを自ら調べることと環境問題の本質を把握してもらうことを狙いとしている。

この研究の成果は、佐賀大学の目的志向型研究や佐賀市の環境施策に提案している。

研究テーマ

① エコツーリズム

⑤ 食と環境

② 環境教育

⑥ クリーク

③ 佐賀大学版EMS

⑦ 水環境

④ シックスクール

⑧ 3Rの推進

□ 【佐賀打ち水大作戦2006】

広く打ち水の実施を呼びかけることにより、市民や事業所等に省エネを始め環境問題を考え積極的に取り組んでもらうきっかけとする。

栄の国まつりパレード、佐賀城本丸歴史資料館イベントなどに参加 平成16年度から実施

□ 【河川清掃】

春と秋の年2回、佐賀大学、地元自治会と合同で河川清掃を実施し、地域との交流を深めている。

10. 全国星空継続観察 3-10

～スターウォッチング・ネットワーク～

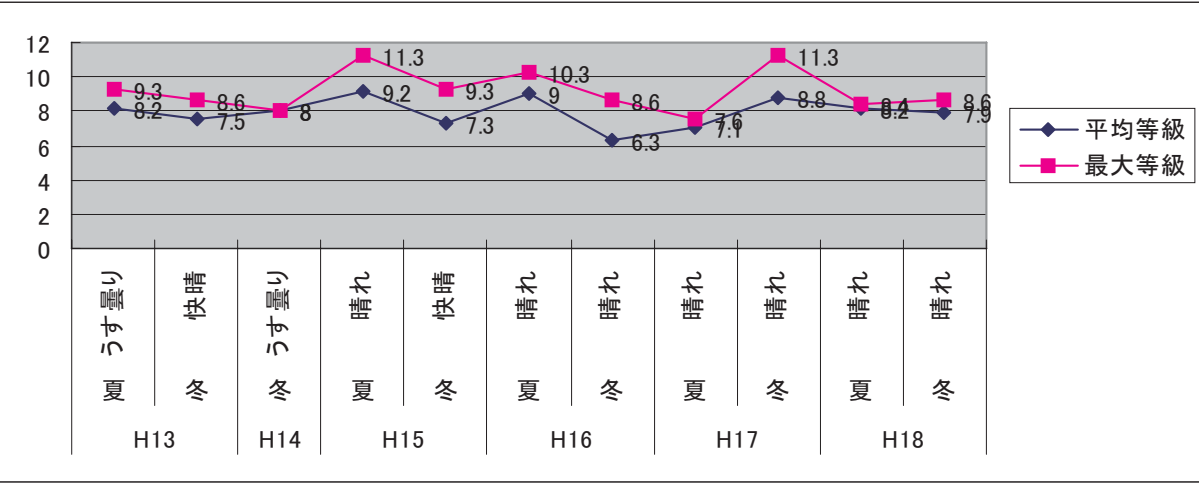
地球環境への関心が高まるなか、大気保全、環境保全の重要性を一人でも多くの人々に考えてもらう機会を作る目的で、星空の観察という身近な方法により大気環境の状態を調査する、環境省主催の全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）に昭和63年度から参加している。観察は、夏・冬の年2回、西与賀コミュニティセンターで行っている。

(1) 双眼鏡観察結果

年 度		天 候	日 時	参加人数	平均等級	最大等級
13	夏	う す 曇 り	H13. 8.11	28名	8.2	9.3
	冬	快 晴	H14. 1.05	14名	7.5	8.6
14	夏	雨 天 中 止	—	—	—	—
	冬	う す 曇 り	H15. 1.30	3名	8.0	8.0
15	夏	晴 れ	H15. 7.26	21名	9.2	11.3
	冬	快 晴	H16. 1.11	14名	7.3	9.3
16	夏	晴 れ	H16. 8.15	6名	9.0	10.3
	冬	晴 れ	H17. 1.07	10名	6.3	8.6
17	夏	晴 れ	H17. 8.03	3名	7.1	7.6
	冬	晴 れ	H18. 1.22	14名	8.8	11.3
18	夏	晴 れ	H18. 8.23	5名	8.2	8.4
	冬	晴 れ	H19. 1.14	8名	7.9	8.6

※星の等級について

天体を地上で観測した時のみかけの明るさを表した数字。その星自体の明るさを表す絶対等級と区別して、みかけの等級ともいう。等級は数字が1減るごとに約2.5倍明るくなる。数字が大きいほど暗い星まで見えたことになる。



11. 佐賀市エコプラザ管理運営事業 3-10

佐賀市エコプラザは、佐賀市の環境学習の拠点として、市民に「“ごみを出さない生活”を実践するための啓発活動」及び「水環境を主体とした環境保全活動」の機会を提供し、市民の環境に対する意識の高揚を目的とした施設である。

1階 「再生ゾーン」

ごみを出さないために必要な技術、知識の普及を行い、市民の3R（ごみの減量：Reduce，再利用：Reuse，再資源化：Recycle）の意識高揚を図る。

【再生講座、エコマーケット（フリーマーケット）、再生品販売など】

※ 平成17年度より、ごみ減量啓発業務としてNPO法人に運営委託。

2階 「環境学習ゾーン」

佐賀市の自然環境や環境に関する科学的に正しい知識の普及を行い、市民の環境保全の意識の高揚を図る。

【環境啓発展示、子ども環境講座開催、環境教育教材貸出など】

3階 「工場ゾーン」

清掃工場・リサイクル工場内部に市民が自由に見学できるコースを設置し、市民のごみ問題に対する関心の高揚を図る。

平成18年度来場者実績 ※平成15年8月17日開館

	区 分	団 体 数	見学者数
団体施設見学	市内小中学校	29	2,107名
	市外小中学校	35	1,501名
	そ の 他	60	1,770名
	計	124	5,378名
再 生 講 座	実 施 回 数	119回	
	受 講 者 数	506名	
来場者		12,432名	
イベント来場者		13,798名	
合 計		32,114名	

(1) 子ども環境講座

- 1 目 的 佐賀市の地域特色を活かした環境学習講座を開催し、体験活動を通して身近な環境について学んでもらうことにより、将来を担う子どもたちに環境保全の意識を育む。

- 2 開催日時 月1回（夏休みについては特別講座も開催）

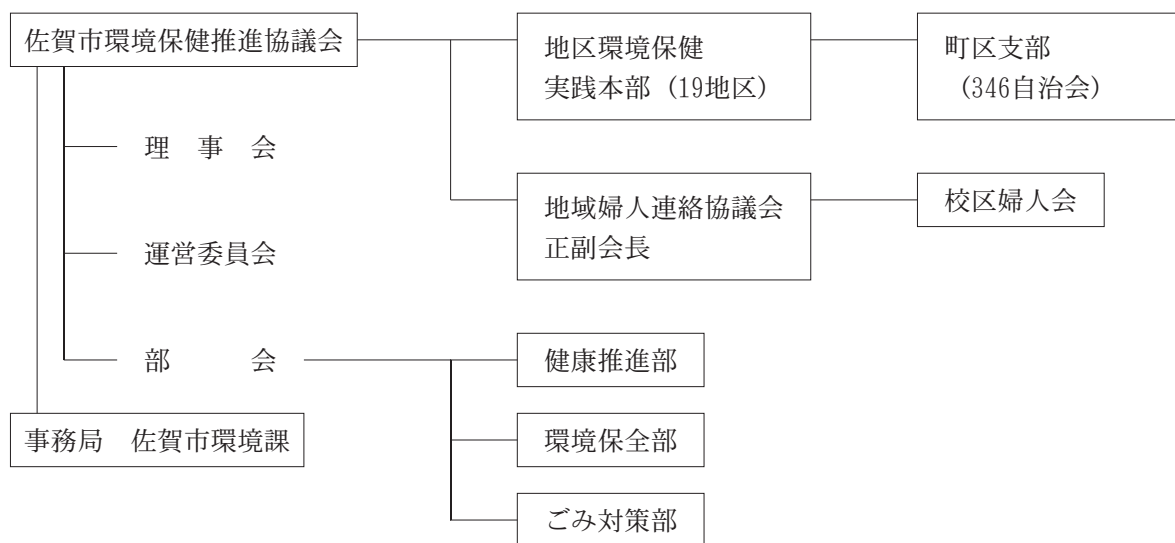
- 3 開催場所 基本的に佐賀市エコプラザ周辺
- 4 募集人員 小中学生とその保護者 40名程度
- 5 講 師 佐賀トンボ研究会、佐賀自然史研究会、佐賀天文協会、日本野鳥の会佐賀県支部、さが21世紀県民の森
- 6 参 加 費 無料
- 7 平成18年度実績

※ 17年度より、「トンボ王国・さが」づくり事業のトンボ教室も、子ども環境講座として実施。

開催月	内 容	参 加 者
4 月 講 座	トンボ教室 金立山のトンボ観察	子供：14名 大人：13名
5 月 講 座	トンボ教室 多布施川のトンボ観察	子供：12名 大人：10名
6 月 講 座	トンボ教室 鳥栖のピオトープ観察	子供：16名 大人：19名
7 月 講 座	トンボ教室 檜原湿原および横武クリーク公園の観察	子供：18名 大人：16名
夏 休 み 特 別 講 座	親子昆虫写真教室 トンボを中心に昆虫写真の撮り方	子供：9名 大人：4名
夏 休 み 特 別 講 座	夏の星空観察会 大気の汚れや光害について考える	子供：0名 大人：5名
8 月 講 座	トンボ教室 夏休み自然観察会	小学校：10名 中学校：11名
9 月 講 座	川の生き物 多布施川とまわりの水路に棲む魚たち	子供：19名 大人：14名
10月 講 座	トンボ教室 金立公園のアカネ類の観察	子供：15名 大人：16名
11月 講 座	中止	子供： 名 大人： 名
12月 講 座	バードウォッチング 佐賀県立森林公園の鳥たち	子供：2名 大人：2名
1 月 講 座	冬の星空観察会 大気の汚れや光害について考える	子供：2名 大人：9名

12. 佐賀市環境保健推進協議会 3-10

(1) 組 織



(2) 事 業

年 月 日	事 業 内 容
平成18年 4 月～6 月	春の「川を愛する週間」(19地区 33,528名)
平成18年 5 月28日	県下一斉ふるさと美化活動事業 (12,099名)
平成18年 7 月14日	佐賀市環境保健推進協議会総会
平成18年 8 月30日・31日	環境保健先進地視察研修 (佐世保ハウステンボス、佐世保市環境センター)
平成18年10月	市民一斉月間 秋の「川を愛する週間」(19校区 35,693名)
平成18年10月22日、30日	マイバッグキャンペーン
平成19年 2 月 3 日	第47回佐賀市環境保健推進大会 (参加者672名)
平成18年 4 月～平成19年 3 月	地区組織活動、部会活動事業
平成18年 4 月～平成19年 3 月	地区環境保健実践本部長会 5 回
年 間	環境整備事業【市環境課と共同】 蚊の調査 (7 町区)。ペットのフン調査 (1 地区)
年 間	ごみ減量事業 ・資源ごみの団体回収、マイバッグの推進 ・ごみ減量推進の町普及促進 (296団体 46,631世帯) ・廃食用油の回収
年 間	健康推進事業 ・健康診断受診推進 ・食生活改善 (食の健康教室 延べ165回) ・食育の推進、健康推進員推薦